

# 半永久的トンネル 実際は2メートル

墨が飛び散っていた。幽霊の書いたような書体。

文字の先端は消え入るように薄くなっている。

この先トンネルあり。半永久的に続く暗闇です。

俺はハンドルを握り締めながら考えた。車窓の向こうは夜である。

不思議と怖さはなかった。

何故なら、助手席に大きなクマのぬいぐるみ。そして左斜め後方の座席に大男が乗っているからである。

半永久的とは言葉であって・・・・・・・・。

実際はどれくらいの長さなのだろう？

具体性のないその矢印に俺は疑問を抱く。

しかし大男の一言ではっとした。

「半永久的とはもうずっとというくらいでしょう・・・・・・・・」

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。